

住まいの飾り職人「アトムリビントック株式会社」の広報誌

ATOM NEWS



173

【アトムニュース】
2011 SEPTEMBER 秋号

「見えないけど湧き上がってくる、その感情をカタチにしたい」

工房のつもりで、勝手に夢を描いていたKOM Aのデザインルーム。

一步、中に入ると、そこは工場だった。

木を加工するマシンが鎮座する。男たちが汗をボタリ、落としながら作業をする。家具製作のための工場がそこにあった。

入口のシャッターは開け放たれたまま。エアコンなど設置されていない工場には、夏の暑さが容赦なく襲いかかってくる。

作りかけの椅子。松岡さんは、ヒョイツと手元に引き寄せ、完成時には肘掛けになるだろう部分を小刀で削り始めた。シャリツ、シャリツ、シャリツ。なんだかソフトな感触のチヨコレート

を削っているようだ。が、実際、木は滅茶苦茶硬い。なのに、いとまたやすく。これが職人の技？

休業時代、石の上にも二年半

「俺が休業のために製作会社へ入った頃は、10歳から家具づくりをしている……っていう親方衆もいて」
そういう職人が、まだギリギリ残っている時代だった。

「そういう職人の仕事が見られたっていうのがよかった。半端じゃなく、厳しかったですけどね」
「帰れ」「もう来るな」の毎日。
一年間は、クソミノ。でもそれは仕方ない。できない自分が悪いんだから、

ぐっと堪えて我慢、我慢。
「一年半くらい経った頃、自分でも椅子が作れるようになってきて」

トップの営業マンが松岡さんの作品に目をつけた。「こいつは、売れる」

営業マンの予想どおり、松岡さんの作る椅子は販売実績をどんどん伸ばしていった。

自分の信念をカタチに

独立後、松岡さんは親方に鍛えられた技術と自由な発想をベースに家具職人の世界を確立している。

ここに新しく作ったテーブルがある。木目の組み合わせがちよっと変わっている。

「自然には自然のエネルギーがあって、そのエネルギーが自分の都合のいいように造形を作っている。でもね、オレは敢えてそれを無視して、このテーブルを作った」

わざと無視して作ったのだから何年後かには割れる、反る、畝ってくる。そんなの分かりきっている。直してやればいいだけのこと。割れる、直す。反る、直す。畝る、直す。

「その繰り返しの中で、テーブルはい顔になっていく。じっくり、時間をかけて創りだす、家具とオレとのコラボレーション。自然とオレ、お互いの美意識の競い合い……かな」

自然が何か言う。その言葉を聞いてやる。そして、納得したり反発したりしながら、完成を目指していく。
「モノづくりっていうのは、そういうもんだと思う」

これから、この先は……
「ベースは職人。だけど、その上に何を乗っつけられるか」

職人・松岡。は立ち止まらない。



松岡茂樹 ● 1977年・東京生まれ。2000年～2002年 日田工芸株式会社(木製家具製造会社)入社。家具職人としての休業を始める。2003年(デザインワークスKOM A)設立。オーダー家具の製作および、家具コンペティションでの作品発表を行う。2007年株式会社KOM A設立。2010年情熱と信念をキーワードに本格的に自社製品cocodaの製作を開始。2011年4月、アトムCSタワー 5f+プロジェクトに参加、新シリーズ作品を中心に常設展示スタート。現在は2012年からの海外での活動に向け準備中。



まずはスタッフ紹介。向かって左が松岡氏が入学した美術学校で出会い、現在はKOM Aの家具製作分野で、また営業面で「彼なくてはKOM Aが生きない」という存在の亀井氏。中央は松岡氏。右側が弟子である海老沢君。松岡氏曰く「会社とは、そこに属する人が夢や目標を叶えるためにあるもの。自分が最高だと思えるパートナーや従業員と、共に織られていく物語はまだ、始まったばかり」。その物語の行方が楽しみだ。



アルティザンはフランス語で「職人の意味」。Artisan Gallery(アルティザン・ギャラリー)では、職人の技と生き方を写真とエッセイでお届けします。Artisan GalleryのFacebookページ「アルティザン・ギャラリー」での活動もご期待ください。



創り・作る

家具職人 松岡茂樹

何の変哲もない、薄汚れた木の板 あちこち。

足場 机上 工場に散らばるのは 木屑、木屑、木屑。

家具職人 松岡の作業着も……やっぱり木屑だらけ。

壁に祀ったように見えるのは 鉋（カンナ）。

大きい鉋 小さい鉋。きちんと整列していて美しい。

100% 自分の思いを表現したかった。家具ならそれができると思った。

それで家具の製作会社の門を叩いた。20代になりたての頃だった。

「その時、オレはスキンヘッドだった。ヤンキーな身なりのまんま

便所掃除でも何でもやるからって頼み込んで」

ベテランの職人にしごかれる毎日。失敗すると「帰れ！」のひと言。

一人前になるには、最低でも10年……が常識の世界。なのに

「3年で独立するって決めた」笑われた。

でも、決めたことは守り抜く。

朝早くから、夜遅くまで。独りで工場で作品づくり。

自分に逃げない。2年半で独立した。あっぱれ！

今、「帰れ」と言われてから11年の歳月が流れる。

木の選び方、繋げ方、削り方、組み立て方

「オレの作る椅子は、ちょっと違うよ」

図面は引かない。木の顔を見る。

「木という絵の具を上手く使って絵を描く。それがオレのやり方」

木目がある。どう、合わせるか。絵を描くように組み合わせていく。

「組み合わせで、顔が違ってくる。オレの作った家具はべっぴんさんだよ」

長い板、一気に鉋で削る。 シャーツ

気に入った鉋屑が出るまで削る。 幾度も幾度も シャーツ シャーツ

と、鉋屑が力強く、天に向かって舞い上がった。 にんまり。

どうやら、何やらべっぴん家具を感じた様子。